



新たな時代へ

二宮町消防長 小 熊 朗

本年4月、消防長に就任いたしました。その責任の重さを痛感しており、誠心誠意職務に精励する所存です。

消防団員の皆様には、町民生活の安全安心の確保に多大な役割を果たしていただいていることに感謝申し上げますとともに、日々その活動を支えていただいておりますご家族の皆様には厚く御礼申し上げます。

さて、二宮町は古くから気候が温暖で、海の幸や山の幸にも恵まれ、災害の少ない住み良い町として知られていますが、近年の災害は予測不能な自然災害も多く、一旦発生した災害の対応には、多くの消防力が必要となります。

そのような中、昨年12月には東日本大震災の教訓を踏まえ、消防団を将来にわたり地域防災にとって欠くことのできない代替性のない存在として位置づけた「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が制定され、装備の改善や団員の確保など充実強化が必要とされました。

二宮町では、かねてから安全装備など消防団の充実強化に取り組んでおりますが、引き続き皆様が安全に消防活動を継続できるように更に連携を強化していきたいと考えておりますので、今後とも消防の任務遂行のため、ご協力をお願いします。

魅力溢れる二宮町を守る消防団

二宮町消防団長 杉 崎 一 夫



日頃より町民の皆様には、消防団の活動に深いご理解とご協力を賜り心より感謝御礼申し上げます。

消防団は、平素は様々な職業に従事しながら、火災や自然災害など多種の災害発生時には非常勤の地方公務員として対応する組織であり、「地域は自らで守る」郷土愛の精神に基づき活動しています。

近年では東日本大震災はもとより、過去に経験した事の無いほどの豪雨による土砂災害や予測の難しい火山の噴火など人知の及ばない災害も発生し多種多様な広範囲の災害対応にも取り組まなければならないと考えられます。

二宮町消防団は、平塚市、大磯町の1市2町で組織する神奈川県消防協会湘南支部の支部長を受け、今年度は各市町2個分団の6個分団で二宮町の剪定枝資源化施設と東大果樹園跡地をお借りし住宅地近隣山林火災を想定した放水訓練を行いました。他市町の訓練を経験する事で機材器具の操作方法や動作に日頃の地元での訓練とは違った課題が発見され大変有意義な訓練を行えたと思います。



湘南支部訓練：東大果樹園跡地

二宮町は首都圏でも西の田舎の長閑さがあり、恵み豊かな相模湾の美しい海岸や吾妻山を中心に四季折々の草花が見られる植物の宝庫です。この「魅力溢れる二宮町」に暮す方々の生命財産を守る使命を遂行するために全団員心一つに活動しており、この活動で得られた結束力や絆は一生を通じて大事な宝物となっていきます。

「やってみたい消防団 やってよかった消防団」を目指して日々活動に励んでいます。あなたも是非「新たな消防団の力」となって参加してみませんか!!

消防団員募集

公務災害補償制度 被服の貸与・退職報償金 表彰制度
問い合わせ—消防本部・消防課庶務班 ☎72-0015

消防団は、通常は自らの仕事を持ちながら、「自分たちのまちは自分たちで守る」という郷土愛護の精神に基づき、地域の人たちのため、社会のために活動している人の集まりです。

二宮町では、現在約7割の団員が、サラリーマンです。



Fire Press

二宮町消防団広報紙

平成26年11月9日発行

Vol.12



災害に立ち向かう団結力

大切なまちや家族を守りたい想いはひとつ。

消防団は、二宮町に「住んでいる」「働いている」人によって構成される消防機関です。

一人ひとりが、それぞれの仕事を持ちながら、「自分たちのまちを自分たちで守りたい」というココロで、様々な活動を行っています。消火活動や救助活動だけでなく、火災を起こさないための火災予防や防災啓発など、どなたにでもできることがたくさんあります。

新入団員による放水訓練



チェーンソー操作



私達は、二宮町消防団です

合同訓練：梅沢海岸



体力錬成大会（優勝：第一分団）



「自分たちのまちは、自分たちで守ろう。」

新しく仲間に加わった団員の声をお届けします

第一分団 (川匂・釜野・越地・茶屋・梅沢)



消防団に入団して 村田 秀行

昨年度まで商工会青年部に所属していた私は、青年部仲間の勧めで、今年入団しました。

保険の代理店をしている私は少しでも仕事の役に立てばと思いました。入団して約半年、訓練は思った以上に真剣で驚きましたが、やっと慣れて来ました。まだまだ半人前ですが、災害時に少しでも役に立てる様頑張っていきたいと思ひます。



地域の安全に貢献 西 亮太郎

以前から自宅近所で昼夜訓練を行っている姿を拝見し「すごいな！」と感じていましたが、自分が入団の誘いを頂くとは想像もしていませんでした。

入団当初は右も左も分からず緊張の連続でしたが、先輩方の親身なご指導と暖かい励ましを受け、少しずつ自然と体が動く場面が多くなったと思ひます。

今後も消防技術、知識の向上に積極的に取り組み、消防団員としての誇りを感じながら地域の安全に貢献していけるよう一層努力していきたいです。



つながりを大切に 前川 健雄

私は今年4月から消防団に入団しました。もともとあまり地域の事に興味がなかったのですが、地区長や近所の消防団の方からお話を頂き入団しました。

入団して感じたことは、先輩団員の方達の消防に対する熱意です。定期訓練の後の反省会でも「あそこを、あそこを、もっと早く放水出来た」など常に向上心を持って取り組んでいるのが、とても伝わってきます。

自分はまだまだ分からない事だらけですが、1つ1つステップアップし、有事の際は少しでも役に立てるようになり、自分が先輩になった時には新しく入団した方にしっかり指導出来るようになりたいです。

また、消防団に入団して出会った方達とのつながりをいつまでも大切にしたいと思います。

第二分団 (上町・中町・下町)



消防団に入団して 金子 裕司

二宮に二十数年ぶりに住むことになって、何か社会貢献を出来ることか？と思っていたところ、地区の方、家族の勧めもあって消防団に入団することになりました。

いざ入団が決まると、段々と体力面や消防団活動など、ついていけないのか不安になりましたが、先輩団員の方やOBの方々のアドバイスもあって、約半年活動することが出来ました。

色々な年代、職種の団員の方や地区の方々との交流ができ、町内で仕事をしていますが、それだけでは得られない交流ができて、消防団に入団して良かったと思ひます。

毎月の訓練があって、最初は覚えることが多く、毎回思い出しながらの活動ですが、一つ一つ身につけて、地区の方々、先輩団員、OBの方々の思いに応えるよう、消防団員として消防団活動を勤めていきたいと思ひます。

第四分団 (中里・百合が丘1丁目)



消防団員としてのやりがい 林 賢史

消防団に入団して早半年が経過しました。思い起こすと半年前、先輩に入団の声をかけていただき、本当にあっという間の半年でした。子供が小学生になり、地域との繋がりを深める事が目的で入団をしましたが、訓練を重ねるうちに先輩方の厳しくも温かいご指導を受け、私自身の人間としての成長の場でもあると心から思っています。今後も家族の為、地域の為に、また自分自身の成長の為に、一生懸命に分団活動をしてまいります。



新しい刺激の連続 進藤 淳一

消防団の存在は以前から知っていたのですが、まさか自分がその消防団へ入ることになるとは思いもしませんでした。

ホースの扱い、放水時の筒先の重さなど毎回新しい刺激の連続で、難しい訓練の時もありましたが、先輩方のフォローもあって、なんとか無事に入団から半年を迎えることが出来ました。

まだ自分は仕事との兼ね合いでかなり四苦八苦はしていますが、先輩方は仕事と消防団、両方上手こなしている姿に毎回驚かされています。



最年少の団員として 八藤 後和将

私が消防団に入団して半年がたちました。二宮の分団員の中でも最年少でやらせて頂いております。

初めの頃はすぐ辞めてしまうのではないかと、様々な心配をしていただきました。

私が入団したのは地域貢献、二宮の為、そんな事はまだ言えません。これから想定される大地震、大規模火災、それらの災害が起こる時、仲間内で1人でも対策する術を学ばば… 仲間、家族、目の前の人達、そんな方達を守りたいと思ひています。



新入団訓練:二宮小学校



消防団は大切な存在 白井 大輔

消防団に入団してから、1年半が過ぎました。生まれ育った二宮町のために、何か役に立ちたいと思ひ入団を決意しました。

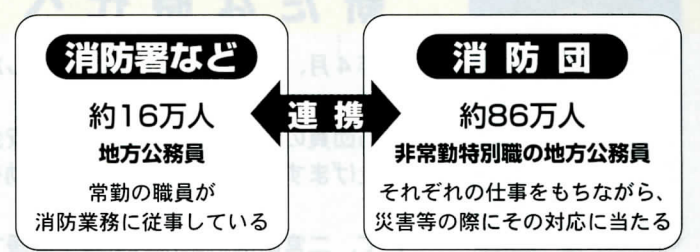
消防団の活動は、予想以上に多かったです。毎月の放水訓練、機関点検、火災予防を喚起しながらの地域巡回、地域のお祭りでの火の元の管理等々です。放水訓練は、常に火災をイメージして行われるため、緊張感があります。

活動を通じて、地域とのつながりを強く感じました。活動服を着て街を歩いていると、「いつもありがとう。頑張っね。」と声をかけられます。消防団は、地域の安全・安心を守る上で重要な役割を担っており、大切な存在だということに気がきました。

これからも、訓練に励み、身体を鍛え、地域の安全・安心を守れるように努力していきたいと思ひます。

消防団と消防署の違い

消防団は、常勤の消防職員が勤務する消防署とは異なり、火災や大規模災害発生時に自宅や職場から現場へ駆けつけ、その地域での経験を活かした消火活動・救助活動を行います。消防団員の身分は、非常勤特別職の地方公務員です。



第三分団 (元町・富士見が丘1・2・3丁目・松根)



消防団に入団しての感想 池田 真一

私は、消防団に入団し、活動を行ってきた過程で、様々なことを感じています。一つ目は基本的なことですが、地域への貢献と繋がります。

その地域に住んでいる人々で構成される消防団は、地域に発生した火災や災害等に迅速に対応しなければなりません、時には知人が被災者になる可能性もあり、その時は心の支えが必要となることも考えられます。地域の人々と繋がりを持っているからこそ強い使命感も生まれ、それが消防団を支える大きな力だと感じます。

二つ目は、人々に与える安心感や防災意識です。近くに消防団員が居るだけで安心感を持つ人は多いのではないのでしょうか。これは、核家族化した現代社会において防犯面でも消防団が貢献しているのだと思ひます。また、消防団員が活動している姿を見て、火災を連想し、自宅の火の元は大丈夫かと思う人も多いのではないのでしょうか。これは、火災を未然に防ぐことで火災予防に繋がります、広くは防災意識の高揚に繋がります。

消防団に入団して約半年になりますが、多くの人々と知り合うことができました。入団する前は不安もありましたが、訓練を重ねるごとに少しずつ自信も持てるようになり、火災現場などでも先輩方の指示に的確に動けるよう今後も訓練を重ねて行きます。

地域の安全安心のために日々精進します。



入団して6ヶ月、学んだこと 白阪 学

今年4月より二宮町消防団に入団しました。入団するきっかけは、三分団の方々が自宅まで数回足を運んで下さり、消防団の活動内容や魅力を丁寧に教えて頂いた事でした。

しかし、入団しても仕事をしながら月2回の定期訓練や二宮町での水災が発生した場合に対応ができるだろうか…？

考えても仕方ない、何事もやってみなければ分からないのだと思ひ、入団する事に決めました。入団して、まずは新入団員訓練です。二宮町消防本部で学科と実技を教わってもらいます。火災によって発生する様々な危険要因に対してどの様に消火活動をするかを教わってもらいます。実技に関しては、「気をつけ」等の号令と共に新入団員十数名が一斉に気をつけの姿勢になります。これら訓練礼式といい、馴れるまで普段の空いている時間を利用してイメージトレーニングをする事が大事でした。

次に、器具操法です。これは実際に消防ポンプ自動車を動かして、ホースを繋いで水を送り、想定された火点に向かって放水し消火するという実践さながらの体験ができます。時には葛川の水を使って放水訓練をしたり、チェーンソーの取扱方法やロープの結び方なども練習します。

最後に団員一人では放水ができません。その間に火は延焼していきます。団員一人一人の役割があり、全員が一つの目標に向かっていく大切さを学びました。これからも新しい事に日々チャレンジし、経験した事を糧に安心して暮らせる二宮町になる様に頑張ります。

第五分団 (一色・緑が丘・百合が丘2・3丁目)



消防士の職業に憧れ 井上 辰則

五分団の先輩に誘われて入団することを決めました。子供の頃からテレビで見て消防士の職業に憧れがありました。入団してまだ数ヶ月でわからないことだらけで戸惑い不安ばかりです。

訓練に参加すれば先輩の方々が、親切に指導してくださるので辛いと思うことはありません。

これからは消防活動を含め、地域活動にも参加して二宮町にも貢献できるよう頑張っていきたいと思ひます。



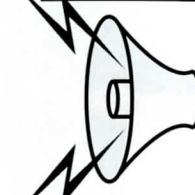
地域に貢献できるように 寺崎 浩司

平成26年度第五分団新入団の寺崎浩司です。地元は二宮町ではなく、10年前にこの町に引っ越ししてきました。入団をしたきっかけは、近所で知り合いになった人が消防団員でその方に勧めていただき見学に行かせてもらい、作業内容の説明や隊形などを体験しました。

3年半前に起きた東北の震災で改めて地域の大切さを知り、自分も家族がいるので、災害時には地域の人たちに助けてもらうこともあるので自分も少しで地域に貢献できるようにしたいと思ひ、入団を決めました。

入団してからは仕事と訓練との時間が合わず欠席することが多く先輩団員の方々に迷惑をかけていますが、なるべく出席して早く一人前の消防団員になれるように頑張ります。

30秒間サイレンが鳴ります。夜9時(火災予防運動期間中)



秋の火災予防運動 11月9日～15日

歳末火災特別警戒 12月25日～31日

春の火災予防運動 3月1日～7日

期間中、「火の元点検」を啓発するため21時より30秒間サイレンを鳴らします。火災が発生しやすい季節ですので、御理解のほど、よろしくお願い致します。

防災意識を高めるため、消防車による広報活動・巡回の他、消火栓・防火水槽の点検等を行います。